

13人に1人「大学やめる」検討

コロナ禍影響 FREE調査

新型コロナウイルスの感染拡大が与える影響について、学生でつくる「高等教育無償化プロジェクトFREE」(FREE)は22日、約500人の学生から集めた実態調査の中間結果を報告しました。

↓関連6面

約6割の学生が、アルバイト収入が「減った」「なくなった」、家族の収入も約4割が「減った」「なくなった」と答え、13人に1人が「大学をやめる」ことを検討していると回答しました。

調査はインターネットで行い、119の大学や専門学校に通う学生514人から集めました。

国は学生を守る緊急対策を



新型コロナウイルスによる、学生生活への影響を告発するFREEのメンバーら＝22日、参院議員会館

どを求めています。

参院議員会館で行われた会見でFREE代表の岩崎詩都香さん(東京大学4年)は、「コロナ禍によって、高学費の負担がさらに重くなり、深刻な事態になっています。学生を守る緊急対策が必要です」。

事務局長の齊藤卓稀さん(東洋大学3年)は、こうした深刻な実態が生じている根本には、学生に高負担を強い続けてきたことがあると語り、「あらためて教育は権利であるということ発信していきたい」とのべました。

日本共産党から畑野君枝衆院議員、山添拓参院議員が同席しました。

FREEは、緊急提言も額免除を行う▽学生アルバイトに対して休業補償を行う▽奨学金返済の猶予などの学生に一律で授業料の半

発表。国の責任で▽すべて

額免除を行う▽学生アルバイトに対して休業補償を行

う▽奨学金返済の猶予な